【 様 式 】

地域づくり表彰

せいかい
青海ボランティア隊（愛知県常滑市）

次代へ リアルなつながりなおしで 地域を動かす

せいかい
青海
ボランティア隊
交通弱者移動支援・広報推進事業担当
２０２０～２０２２年度 会長
むらた　きょういちろ
村田　匡一郎



１．常滑市の概要

常滑市は、愛知県知多半島の西岸に位置し、平安時代からの歴史を持つ「常滑焼」や「中部国際空港（セントレア）」がある「空と海のまち」です。常滑焼は、中世から現在まで生産が続いている日本を代表する６つの古い陶磁器窯である「日本六古窯」の一つで、２０１７年に「日本遺産」にも認定された千年の歴史を誇る焼き物で、急須や招き猫の生産においては日本一を誇ります。



古い煙突が残る常滑やきもの散歩道

２．青海地区の概要

私たちが活動する常滑市「青海地区」は、市の北部に位置し、１９５４年に常滑町、鬼崎町、西浦町、大野町、三和村の４町１村が合併して常滑市が誕生した際の旧大野町と旧三和村（矢田、久米、金山など）の枠組みが基礎となった地区です。

古くは伊勢湾西岸の港町・海上交通の要衝として繁栄し、戦国時代、水軍を擁しこの地を支配した佐治氏居城「大野城（宮山城）」があり、織田信長の姪で、のちに徳川秀忠の正室となる「お江（小督）」が最初に嫁いだ地区としても有名です。天下統一を主導した愛知県出身の「三英傑」にまつわる足跡が今でも色濃く残る歴史あるエリアです。

３．団体概要～活動の想いと特長～

青海ボランティア隊は、常滑市の青海地区を中心に、世話焼きなおじいちゃん、おばあちゃんや会社勤めのお父さん、子どもたちから、会社経営者や個人事業主、公務員、元教師まで、多様な世代、多様な人生背景の隊員で、地域社会課題の解決を通じた地域づくり活動をしている任意団体で、地元区・町内会の役員経験者や地元青年団体出身者が中心となり２０１８年に設立しました。

「誰でも、好きなことで、楽しんで、地域に良いことを！」をモットーに、向き合い力の低下でさまざまな関係が希薄となり、世代ごとに高い壁ができつつある今の時代にあって、「人のつながり」を再びつなぎなおし、「人づくり」を行い、官も民も担いにくい地域社会課題に連携・調整・協働で対処し、相互扶助の新たなカタチを次代に残したいという想いで日々活動しています。



さまざまな世代が集まる隊員交流会

特に「人づくり」には強いこだわりがあり、『すべき』という「義務感・負担感」を「使命感・誇り」に進化させ、『したい』『できる』とあわせた３つの動機をしっかりと育むことで、「主体性」を育て、「協働」する悦びを醸成し、時代の半歩先を行く事業をみんなで創り上げてきました。これらの事業をきっかけに、常滑市内はもちろん、近隣他市他地区から入隊した隊員も多く、設立当初の約２．３倍７０名（うち子ども隊員１６名／２０２６年９月現在）にまで増え、年齢性別を問わず、やがて地域のリーダーを担ってもらえる人財の育成に果敢に挑戦しています。

また常滑市は、もともと地域活動が盛んで、地元に貢献したい、地元にとって良い会社でありたいと考える企業が特に多く、地域貢献への想いが強い地元民間企業・医療法人・団体を積極的に発掘し、地域の多くの人々から「あったらいいのに」を事業化し、直接的な活動には参加できないけれども、地元における企業価値の向上をもはかることのできる「法人・個人サポーター制度」の創設で、関係人口を増やし、事業資金の持続可能な確保に取り組んできました。現在ではこれ以外にも事業ごとに多様な関わり方があり、お互いのリスペクトと信頼関係のもと、各分野のスペシャリスト・専門事業者によるプロボノ、ノウハウ・資金・物品提供など連携した民間事業者は、他県・他市町を含め大小６０以上にもおよび、現在も増えつつあります。

４．活動内容と成果

今、日本中で、地域が行き詰まっています。この大きな原因として、地域で多様なつながりをつくれる人財が少なくなり、つながる力も弱くなってしまったからだと私たちは考えています。そこで、「人財育成」と「地域社会課題解決」を両輪から取り組み、どうしたら持続可能な地域づくりができるのかという本質的な取り組みで成果を上げてきました。

・無料住民バス

２０１９年度からボランティアドライバー（平日は６０～７０代のリタイアシニア隊員、週末は４０～６０代の現職隊員）がスーパーでの買物や通院など生活のための移動に困っている住民（免許返納や足の不自由な高齢者等）を対象に無償で移送

を行う「無料住民バス」の運行を全国に先駆けてスタートさせました。現在では４月上旬～２月末までの期間中火・木・土曜日午前中３便、年間約１２０日（３５５～３６０便）を運行しています。

直近３年の成果として、２０２３年度年間運行日数１１７日４６８便、年間輸送延べ件数１，３１５件、２０２４年度年間運行日数１１９日３５７便、年間輸送延べ件数１，４４２件、２０２５年度年間運行日数１１９日３５７便、年間輸送延べ件数１，５３９件と年々増加傾向で、高齢者を中心とした生活のための移動手段の確保に貢献しています。



無料住民バスの乗車風景

・子どもフードドライブ

２０２５年度から子ども隊員とお母さん隊員が中心となり、家庭で余っている食品を子どもたちが常滑市内の小中学校に設置された回収ボックスにメッセージとともに入れ、協力団体を通じて困っている家庭へ届ける「子どもフードドライブ」をスタートさせました。現在は市内の小中学校全１３校に回収ボックスを設置し、子どもたちが主体となって事業を実施しています。

直近の成果として、２０２５年度市内１２校の小中学校が参加し年間寄付食品実績２３４kg、別途市内賛同企業からの年間寄付食品実績６９６kg の食品寄付を行うことができました。



食品寄付回収ボックスの引き渡し式

・無料住民電動小型モビリティ

歩道走行ができ、免許返納後の高齢者の新たな近距離移動の手段として普及が進みはじめた電動小型モビリティ。私たちは交通空白が多いこの地区で安心して生活できるよう、無料住民バスだけでなく、その普及のための講習と貸し出しにも取り組んできました。

これまで体験試乗会１７回、貸出件数２７件を実施し、自分で移動できる手段を持つことの重要性を伝え、利用の普及啓蒙を行ってきました。



走行指導の講習会

・親子ビーチクリーンウォーキング

市内はもちろん、近隣市町も含めた親子を対象に青海地区の海岸を楽しんで歩きながら漂着ゴミを拾い清掃するボランティアイベントとして２０２３年度から毎年実施。毎回１００名ほどの親子に参加していただき、環境問題について親子で考える身近な機会として定着しつつあります。



海岸の漂着ごみについての講習

・夏休みラジオ体操

２０２１年度から夏休みの生活のリズムがなかなかつくりにくい地元の幼稚園、保育園、小中高校生を対象にスタート。現在では親御さんや高齢者を加え、世代を超えた地域交流事業に変更し、夏休みのはじまりと終わりの合計１４日間、毎朝６時３０分から実施しています。

直近３年の成果として、２０２３年度述べ参加人数１，４３４名、２０２４年度述べ参加人数１，６９５名、２０２５年度述べ参加人数２，２２３名で、生活のリズムを崩しやすい子どもたちからシニアまで、幅広い世代の地域交流の機会として定着しつつあります。



さまざまな世代が一緒に体操

５．創意工夫

現在もボランティアと言えば「無償」というのが一般的です。しかし、移動費や備品代、消耗品費などは毎回自己負担となるため、参加のハードルが高い状況でした。そこで私たちは、人の集まりにくい活動の有償化を推進し、地域社会貢献活動に参加するたび１人につき１時間あたりの実費弁済としての謝金を受け取れる仕組の整備に先駆けて取り組んできました。

また、シニア世代が中心となってスタートしたボランティア団体としては珍しく、先駆けてブランディングを導入。規約から事業計画、ブランドマーク・カラー、隊服、ホームページなどを整備し、隊のらしさの一貫性づくりとイメージ統一をはかってきました。そして、私たちのあらゆる情報について透明性をもって積極的に公開してきました。これは、自らの信用を高めることが、地域住民の安心につながり、同時に私たちと関わってくださるステイクホルダの価値を高めることにつながる最重要事項と考えているからです。

６．課題と展望

少子高齢化や人口減少など、地域を取り巻く環境はますます厳しさを増しています。私たちは「人づくり」を中心とした活動をすることで地域に役立ち、自らもロイヤリティを受け取り、また誰かのためになることを「したい」と自然と思える好循環をつくり、官民の垣根を超えたリアルな「つながりなおし」を担う新たなプラットフォームとして、地域生活圏の発展的維持にこれからも貢献していきます。